

| 平成 27 年度 第 3 回 水辺とみなとのまち 部会 会議概要 |   |
|----------------------------------|---|
| 日 時                              | 平成 27 年 8 月 17 日 (月) 12 : 00 ~ 16 : 30  |
| 会 場                              | 新潟県立歴史博物館 (長岡市関原町 1 丁目字権現堂 2247 番 2)  |
| 出席委員                             | 藤田委員, 田村 (幸) 委員, 外内委員, 青木委員, 関谷委員, 豊嶋委員, 渡辺委員   |
| 欠席委員                             | 大堀委員, 星野委員, 小島委員, 大坂委員  |
| 事 務 局                            | 小柳主幹, 外川副主査   |
| 議 題                              | 「北前船」展 視察   |
| 会議内容<br>及び<br>決定事項<br>等          | <p><b>【前段】</b></p> <p>今年度の「水辺とみなとのまち部会」のメインテーマである「みなと新潟北前船物語」企画の推進にあたり、7.25～9.6 まで開催の開館 15 周年記念企画、新潟・兵庫連携企画展「北前船」展へ視察に行きました。</p> <p>この企画の説明には、同館の学芸課主任研究員の方から 1 時間 30 分にわたり、丁寧に説明してくださいました。今までに見たことの無い展示品と説明に参加者一同カルチャーショックを受けて帰ってきました。</p> <p>1 企画概要</p> <p>「北前船」に関する出品資料は、新潟・兵庫を合わせて 197 品あり、うち新潟会場には 165 品が出展されていました。</p> <p>2 説明の概要</p> <p>江戸時代から明治にかけて、北海道・東北・北陸と西日本とを結んだ西廻り航路があり、この航路上を運行した弁財船、廻船の商業活動を総称して北前船と呼んでいる。という切り出しで始まる。</p> <p>3 特徴</p> <p>①北前船という船はない。元々、日本海を航行する買積船（北前船）として使われていたのが弁財船というもの。瀬戸内で使われていた舟形。</p> <p>②1,000 石船一艘造るのに、1,000 両の経費。2/3 船体、帆柱、舵。1/3 帆、碇、綱、松前行の 1 航海で 1,000 両の儲け。3 航海で減価償却が終わり、後は利益という。</p> <p>③帆は一枚ではなく、45cm 幅の長さ 20m 余りのものが 20 数枚で作られている。風の操作を容易にできるよう、仕切りされているという。</p> <p>④船乗り生活は仕事によって、</p> <p>船頭：船の運航から商品の売買、船乗りの統率など一切を統括。</p> <p>親仁（おやじ）：甲板上の作業を指揮、水夫長。</p> <p>知工（ちく）：金銭の出納を担当、事務長。</p> <p>表：進路を定め、舵を取る航海長。</p> <p>水主（かこ）：一般の船乗り。</p> |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>炊（かしき）：調理担当，船乗り見習い。に分かれており，能力に応じて昇進していく。</p> <p>⑤北前船が運んだ産物＝松前藩は，石高の代わりに鯨，鱈など海産物の取引を与えた。北から鯨，鱈，昆布，スルメ，フカヒレなどの海産物に加え，鯨など肥料用に加工されたものが南に運ばれ，近畿の綿作や各地の農業に使われた。材木，お米，綿織物や古着として再び北へ運ばれた。</p> <p>⑥船箆筒＝鑑札や往来手形，帳簿類，現金，印鑑などを保管する金庫の役割のもの。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
| その他 |   |